

## 人口減少問題に思う（後編）

コロナ禍で新しい働き方などが話題となり、地方創生のチャンス到来といわれています。私も大いに関心があり、行政も取り組みむべきと考えますが、人口減少問題の「肝は別」ではないか。やるべきことは二つあると思うのです。

一つは、よいモデルに学ぶこと。人口8,300万人のドイツは、果たして困っているのか。日本と国土面積がほぼ同じで、大敗戦からの復興や勤勉気質も似ているが、ドイツのインフラ整備は道路・鉄道網だけを見ても日本の1.5倍、人の移動や物の輸送時間の比較では日本はドイツの1.5倍かかるとも。主要先進国の中で最もインフラ整備が進んでいないのは日本だという驚き。混迷の時代だからか、田中角栄待望論がブームです。今、もし田中さんだったら何をいうか？「君ッ！私たちが額に汗して、何のために列島改造を訴え、高速道路網を巡らさんとしたのか！」と、あのだみ声で一喝されそうです。首都圏に人を送り出し続ける仕組みから、地方から首都圏などに通える世の中に。国策で通勤・

通学の交通費負担を限りなくゼロに近づけること、百の議論よりもこの一手で地方が一変すると思っています。

もう一つは、何より国民所得を国家存続の観点で上げること。消費税導入後、国は300兆円の法人税減税を行ってきましたが、実は、不況下でその多くは企業の内部保留に。所得はいつしか先進国の中で最下位。少子化の最大の原因は、結婚しないことだと分かっています。その真因は4割近くは労働者が非正規雇用だからという点も。結婚して少なくとも20年は安定した収入がなければ子どもを持つことは難しい。企業の理論では困難なこの是正を、国策として力強く進めていく。並行して、地方移転を後押しし、応える企業には手厚い法人税減免などのインセンティブを与えること。

鬼気迫る、肝に触れる本物の議論がされないものか。田中さんなら今、このことをいうはずだ。地方から生気を取り戻さなくては。

シリーズ  
第98回

## 国際大学留学生 お国自慢コーナー ～boast of my country～

ブータン王国 ペンジョールさん



## 私の国はこんなところ

雷龍の国、ブータン。経済的な豊かさよりも精神的な豊かさを重んじる国民総幸福量の哲学で知られ、世界で最も幸せな国ともいわれています。ブータンはカーボンニュートラル（二酸化炭素の排出量と吸収量が同じ）の維持だけでなく、世界最先端のカーボンネガティブ（二酸化炭素の排出量より、吸収量が多い）の国です。四季があり、伝統的なお祭りがたくさんある春と秋が、ブータンを訪れるにはいい季節です。観光地としては、雄大なタクツァン僧院が有名です。代表料理は世界一辛いともいわれるエマダツィ（チーズ入り唐辛子スープ）です。ぜひ赤米と一緒に食べてみてください。

## 南魚沼市に住んで感じたこと

母国を連想するような、美しい山々に囲まれた南魚沼の穏やかな環境が好きです。山岳国から来たので、八海山を登山したり、南魚沼を取り巻く自然環境の美しさを眺めたりして楽しんでいます。



## 編集後記

2021年も、6月で半分が終わりますが、行動が制限される日々が続いていますが、身近でできることを楽しみ、今年の残り半分を有意義に過ごしたいです。今は田んぼから聞こえるカエルの鳴き声と、我が家の子どもの騒ぎ声を聴きながら家で過ごし、梅雨明けを待ちたいと思います。(M.A)

## 今月の表紙

南魚沼市消防本部では、市民の安心・安全を守るため、日ごろから技術の向上をめざしてさまざまな訓練を行っています。5月12日(水)、南魚沼市消防署で新潟県消防救助技術大会(6月19日(土)開催予定)に出場する隊員の署内選考会を開催し、訓練の成果を発揮しました。

市民の動き 令和3年4月末日現在 ( )は対前月比

○人口 54,958人(-40人) / 男 26,884人(-9) 女 28,074人(-31) ○世帯数 20,117戸(48)